

紀要

第 17 号

2004.3

財團法人滋賀県文化財保護協会

南郷古窯址群採集須恵器について

畠 中 英 二

1. はじめに

本資料は近年に得られたものではないが、かつて分布調査によって採集され、滋賀県埋蔵文化財センターにて保管していたものの資料整理を行ったものである。なお、南郷山口遺跡（南郷古窯址群）については『平成11年度 滋賀県埋蔵文化財調査年報』

（畠中・林・榎村2000）において既に一部を報告しているが、収蔵庫整理の過程で所在地の推測できる資料の存在が確認できたので、改めて報告するものである。

2. 位置と環境

南郷窯跡群は大津市南郷町の袴腰山を中心とする南郷丘陵、南郷五、六丁目に位置する。袴腰山は岩間山、立木山とともに瀬田川の川岸まで迫っており、安定した平地を求めることが困難である。当該地域においては今回報告する奈良時代から平安時代の須恵器窯跡の他に製鉄遺跡や瓦窯の存在も確認されているものの、その数や位置などについては明確にされていない。中でも須恵器窯跡については造成や盗掘にあって消滅若しくは崩壊寸前にあるものもあり、かつて知られていたものを現状で確認することは困難である。

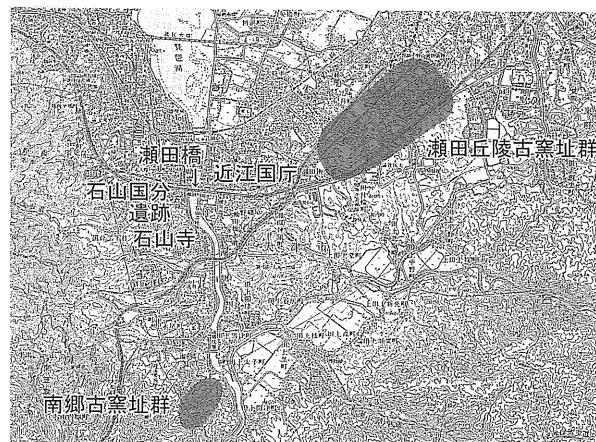


図1 関係遺跡位置図

そのなかで、『平成11年度 滋賀県埋蔵文化財調査年報』において南郷古窯址群から採集された資料の報告を行った。その結果、8世紀中葉から9世紀前葉までの資料があり、順次生産されていったことが判明している。ただし、窯跡の位置が明らかではなかったことから、課題が残った。

3. 資料の概要

(1) 4号窯

杯B蓋、杯B、杯A、横瓶が採集されている。

杯B蓋の口径は15.6～16.8cmのものがみられる。天井部外面は切り離し後不調整、その他の部分については横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

杯Bの口径は14.2～16.8cmのものがみられる。底部外面は切り離し後不調整、底部内面に不定方向ナデを施すものがあり、その他の部分については横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

杯Aの口径は11.4～11.8cmのものがみられる。底部外面は切り離し後不調整、その他の部分については横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

横瓶の口径は14.2cm。体部外面に平行叩き、体部内面は横ナデ、口縁部は別作りで接合する。

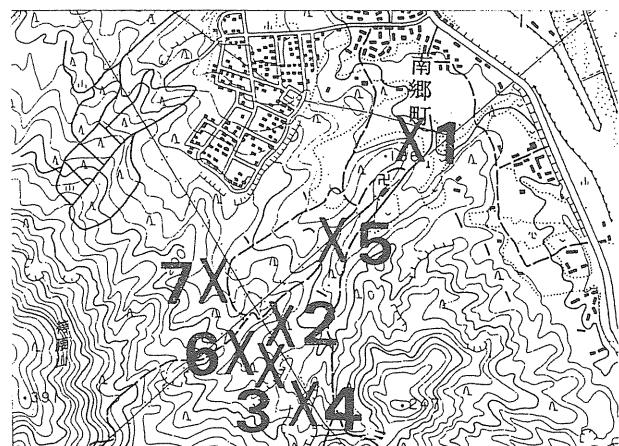
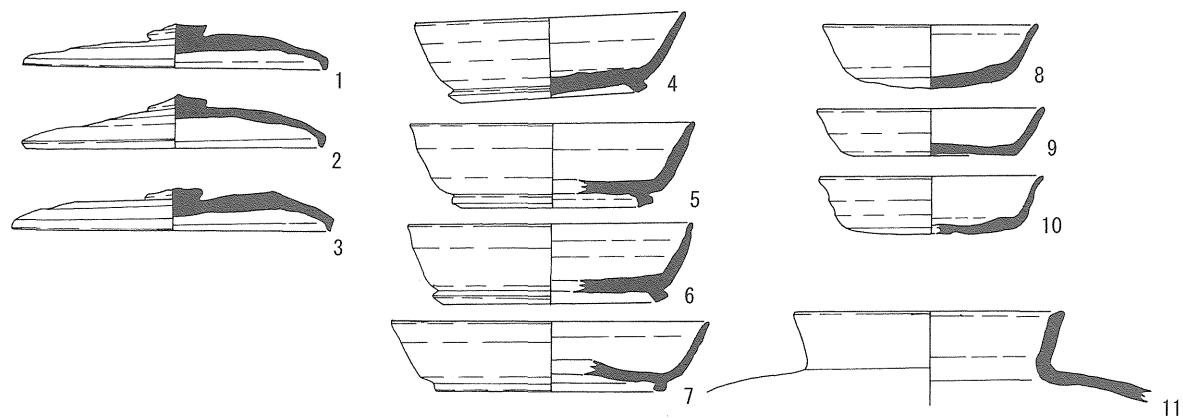
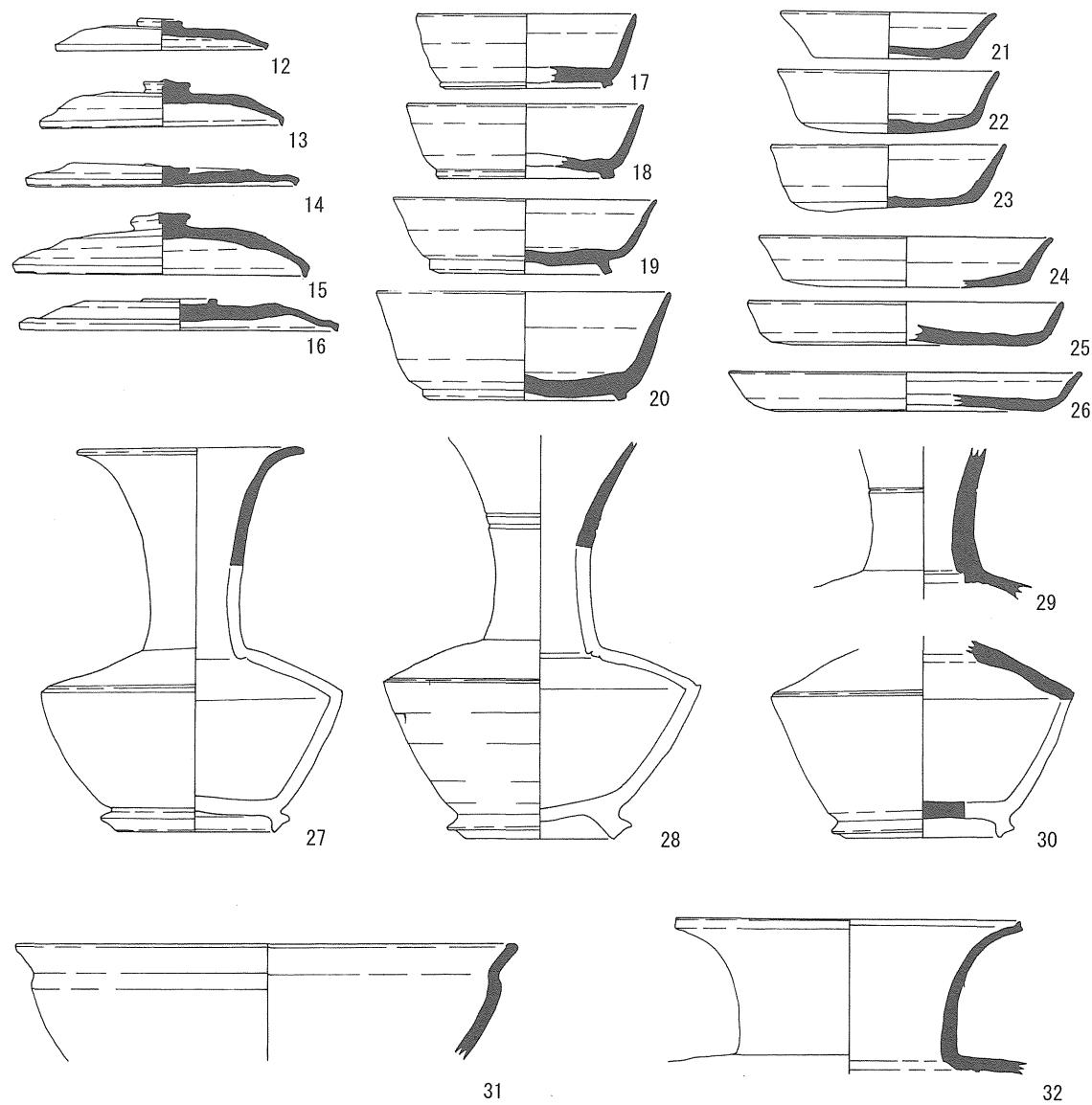


図2 南郷古窯址群
窯跡位置図（葛野1980より転載）



南郷4号窯



南郷1号窯

図3 南郷古窯址群採集須恵器(1) (S=1/4)

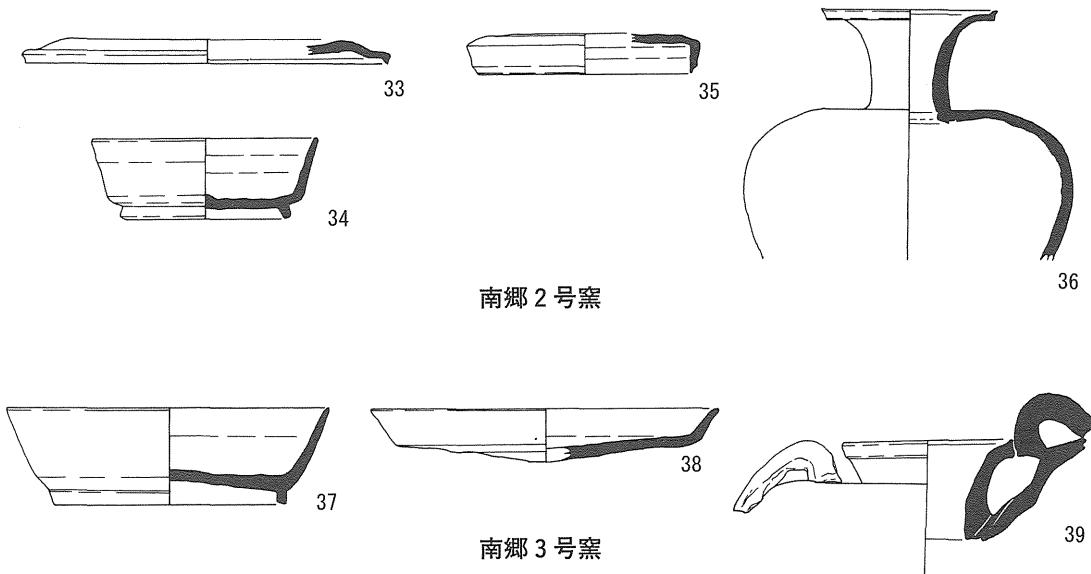


図4 南郷古窯址群 採集須恵器(2) ($S=1/4$)

(2) 1号窯

杯B蓋、杯B、杯A、皿A、長頸壺、鉢、広口壺が採集されている。

杯B蓋の口径は11.5~17.4cmのものがみられる。天井部外面は切り離し後不調整、天井部内面に不定方向のナデを施すものがあり、その他の部分については横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

杯Bの口径は12.0~16.0cmのものがみられる。底部外面は切り離し後不調整、底部内面に不定方向のナデを施すものがあり、その他の部分については横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

杯Aの口径は12.0~12.9cmのものがみられる。底部外面は切り離し後不調整、その他の部分については横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

皿Aの口径は16.2~19.4cmのものがみられる。底部外面は切り離し後不調整、底部内面に不定方向のナデを施すものがあり、その他の部分については横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

長頸壺の口径は12.0cm、体部最大径は16.6~17.6cm、器高は21.6cm。底部外面は切り離し後ナデを施すものと不調整のものがあり、体部下半を回転ヘラ削りを施すものがみられ、その他の部分については横ナデを施す。頸部の接合方法は3段構成のものが主体を占めるが、(27)については一見2段構成に見える。完形品であることから、詳細については明らか

ではない。水びきロクロ回転方向は右。

鉢の口径は27.6cm。遺存している部分については、横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

広口壺の口径は19.0cm。遺存している部分については横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

(3) 2号窯

杯B蓋、杯B、壺蓋、長頸壺が採集されている。

杯B蓋の口径は19.4cm。天井部外面は切り離し後ナデ、その他の部分については横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

杯Bの口径は11.8cm。底部外面は切り離し後不調整、その他の部分については横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

壺蓋の口径は11.2cm。遺存している部分については何れも横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

長頸壺の口径は9.2cm、体部最大径17.4cm。遺存している部分については横ナデを施す。頸部接合方法は3段構成である。水びきロクロ回転方向は右。

(4) 3号窯

杯B、皿A、長頸壺が採集されている。

杯Bの口径は17.0cm。底部外面は切り離し後ナデ、底部内面は不定方向のナデ、その他の部分については横ナデを施す。水びきロクロ回転方向は右。

皿Aの口径は18.4cm。底部外面は切り離し後ナデ、底部内面は不定方向のナデ、その他の部分については横ナデを施す。水びき口クロ回転方向は右。

長頸壺の口径は9.2cm。遺存している部分については横ナデを施す。頸部接合方法は3段構成である。水びき口クロ回転方向は右。

4.まとめ

以上に資料の概要を記したが、これらの窯跡の全体的な特徴および年代観について述べることによって本報告のまとめとしたい。

これら4基の窯跡は、最も量の多い杯類からみると4→1→2→3号窯へと推移していったものとみられる。年代観としては、8世紀中葉から9世紀前半頃であると考えられる。ここで最も古いとみられる4号窯は、瀬田丘陵古窯址群の最も新しい須恵器窯である木瓜原窯と様相が類似している。木瓜原窯と同時に、それに後続して生産が開始したものとみられる。両古窯址群の関係を考える上で重要な要素であろう。

窯跡の年代観と位置関係についてみてみると、現在確認している窯跡の中で相対的に最も古い4号窯が標高の最も高いところに位置する。その後再度谷口から1→2→3号窯へと移動していることが判る。4号窯の位置にやや不自然さが残るが、近隣の瓦窯、製鉄遺跡との燃料材取得にあたっての縄張りに起因するものかもしれない。生産遺跡群全体の動向の中で理解する必要があるだろう。

主たる供給先は、近江湖南地域、中でも近江国庁

周辺であることが近年の調査から判明しつつある。中でも8世紀後半の年代観を想定できる石山国分遺跡から南郷古窯址群産の資料が多量に出土しており、操業年代を想定する手がかりとなる。

個体群の技術的特徴としては、小型の食器（杯・皿類）については、水挽きの後回転ヘラケズリを施さない点、水挽きのロクロ回転方向は右で統一されている点をあげることが出来る。また、ロクロからの器体の切り離しは、糸切りではなくヘラ切りである点、長頸壺の頸部接合方法は3段構成である点も特徴の一つである。また、今回整理調査を行った遺物の中にはみられなかったものの、木瓜原窯でみられたように、土師器を須恵器窯で焼成している個体が存在している。両者がどのような関係にあったのかについて更なる検討を行う必要があるだろう。

今となっては困難な作業となるが、再度窯跡の位置確認を行う必要性、中でも近江国府関連遺跡で出土する9世紀中葉以降の窯跡の確認を行う必要性がある。また、製鉄・土師器生産を含めた全体像の中で須恵器生産をとらえる必要性もある。以上の点を今後の課題とし、本文を結ぶこととする。

（はたなか　えいじ：企画調査課主任技師）

参考文献

- 葛野泰樹「大津市南郷古窯跡群について」『滋賀文化財だより』No40 滋賀県文化財保護協会 1980。
- 畠中英二・林修平・舛村麻貴「南郷山口遺跡」『平成11年度 滋賀県埋蔵文化財調査年報』滋賀県教育委員会 2001。

編集後記

紀要第17号をお届けいたします。今号は8本の原稿を掲載することができました。内容等も、縄文時代から近世にまで至る、様々な時代を対象にしています。

この紀要を職員の研究活動の成果として、今後もさらに研鑽をつんでいきたいと考えておりますので、皆様からの積極的なご叱正・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(K.S.)

平成16年(2004年)3月

紀要 第17号

編集・発行：財団法人滋賀県文化財保護協会

滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2

TEL：(077) 548-9780

FAX：(077) 543-1525

URL：<http://www.shiga-bunkazai.jp>

E-mail：mail@shiga-bunkazai.jp

印刷・製本：宮川印刷株式会社